



2020年度第3回プチ国際理解講座



冬季休業に入った12月21日(月)の課外授業後にプチ国際理解講座を開催しました。

第3回目となる今回は、本校のスペイン語講師である中田ひろみ先生にホンジュラスと青年海外協力隊についてお話をさせていただきました。

中田先生が青年海外協力隊として活動しようと思ったきっかけ

中田先生は子どもの頃からよくテレビで海外を見ていて、日本の家族の形状と違う国の映像を見て海外に興味を持ちました。

ある日インドシナ難民を日本が特別措置として受け入れた映像を見た時に「何かしたい」と思ったけれども、何もできないというジレンマがたくさん重なっていきました。

そんな時青年海外協力隊募集説明会のポスターをたまたま見て行ってみようと思い説明会に参加し、その後新聞に青年海外協力隊の募集要項が載っていてすぐに申し込んで健康診断を受け倍率10倍(職種によって倍率は異なる)の試験に合格しました。

ちなみに今職種として一番人気なのは「日本語教師」だそうです。



インドシナ難民とは

1975年、インドシナ三国(ベトナム・ラオス・カンボジア)では相次いで社会主義体制に移行しましたが、新しい体制の下で迫害を受けるおそれのある人々や新体制になじめない人々がボートで海上へ逃れたり(ボート・ピープル)、陸路隣国へ逃れたりしました(ランド・ピープル)。

これらの人々を総称してインドシナ難民といい、その総数は約144万人に達します。その内約130万人がアジア地域の難民キャンプを経て、また、ボート・ピープルとして、アメリカ・オーストラリア・カナダ・日本などへ定住しました。

中田先生の青年海外協力隊としての活動経歴

中田先生は青年海外協力隊として3回参加しました。

ホンジュラスには2年間住み、生活改善普及員として料理教室や栄養指導、野菜づくり、洋裁、あやつり人形の作り方の指導、オレンジの皮を使ったケーキづくりなど様々な活動をされました。

ホンジュラスに行く前は3ヶ月間青年海外協力隊の訓練所でスペイン語を勉強したそうです。

ホンジュラスについて



面積…112,490 平方キロメートル(日本の約 3 分の 1)

人口…959万人

首都…テグシガルパ

言語…スペイン語



トウモロコシから作ったトルティーヤに塩をかけて食べる(栄養不足)・砂糖多めのコーヒーなどが一般的な食事

水…生水は飲めないため水を飲む時は20分煮沸してから飲む→コーヒーをよく飲む

<ドレス紹介>



メキシコ 吊るしを 購入



ホンジュラス 衣装屋さん に オーダーメイドしたもの



グアテマラの織物

コーヒーの実



☞ コーヒー豆は庭で栽培し自分の家で焙煎して飲む

コーヒーの実ゼリーのような食感で甘い

中の種がコーヒー豆!

中田先生からのメッセージ

ホンジュラスで貧富の差はあるものの貧困は感じませんでした。庭にフルーツが生っているみんな温かく彼らの方が豊かな生活をしていると感じました。スペイン語は生きる武器になっています。スペイン語で生活してみても物事を冷静に見られるようになりました。自分のために勉強できる時間は人生の中であまりないので、時間を無駄にしないようにしてほしいです。